

医学学習指南書と医学書誌目録の類似性と相違性

— リンデンの『医学の手引』 —

澤井 直

順天堂大学 医史学研究室

フラネケル大学、ライデン大学で医学部教授を務めたアントニデス・ファン・デア・リンデン (Antonius Antonides van der Linden, 1609–1664) は、本格的な医学書誌目録の創始者として知られている。『医学著作について』(De scriptis medicis) は1637年の初版出版の後、本人が2度改版し、没後にも増補版が出版された。その初版の第1巻は、古今の医学書著者をアルファベット順に配置し、各著者の著作のタイトル・出版年を簡潔に記す。第2巻は医学書の分野・主題ごとに、それに関する著作を記した著者名を挙げている。

この第1巻の本文の前に、書簡形式で書かれた「D. ペトルス・テュルピウス宛の医学の手引」(Ad D. Petrum Tulpium manuuctio ad medicinam) という50ページからなる一文が置かれている。テュルピウスとはレンブラントの解剖学講義の絵画で著名なニコラス・テュルプ (Nicolaes Tulp, 1593–1674) の息子である。

「医学の手引」は医学の特質や医学に含まれる諸分野の簡潔な紹介を行ない、各分野・主題について数人の重要な作家の名前が挙げられている。古代のヒポクラテス、ガレノスから、17世紀初頭のゼンネルトやカッセリウスなど、ウィリアム・ハーヴィ以前幅広い時代の医師が登場している。「医学の手引」で挙げられた作家の書名の情報は第1巻で確認でき、また第2巻で類書を著した作家を知ることにもできるようになっている。

「医学の手引」は『医学著作について』の第2版(1651)、第3版(1667)では省かれたが、1639年にテュルピウスの名を外した「Manuuctio ad medicinam」という独立した書籍として出版された。本文からもテュルピウス個人に向けて書かれた部分は削除され、解説と取り上げる著者を増やしている。

さらに「医学の手引」は1687年に他の著者による著作と合冊で出版された。Hermann Conringによる『医術全体およびその各部分への導き』をGünther Christopher Schelhammerが編集して出版する際に、Conring以外の4著作が付加され、そのうちの1つが「医学の手引」だった。他にはCaspar Bartholinの『医学学習について』(1628)、Pietro Castelli『最良の医師』(1617)、Johann Rhodius『医学への導き』(単独では出版されたことがない)が加えられた。いずれも医学学習者に対する助言・導きを与える書籍である。

Schelhammerはこの書籍に含まれた5つの著作を同一ジャンルの著作として捉えている。合冊の末尾に、付加された4冊を比較し、それぞれの特徴や難点を挙げている。全体の序文においてSchelhammerはConringに高い評価を与えたことを加味すれば、この末尾の部分はConringの価値を際立たせるために置かれたようである。この書籍に含まれた5つの著作は比較可能なものであると捉えていた。

リンデンの「医学の手引」は、医学書誌目録の一部→独立した医学学習指南書→類書との合冊、と形態を変えながら出版された。このような変化が示すのは、医学学習指南書と医学書誌目録との類似性と相違性である。書籍の存在や内容を提示する点で書誌目録と学習指南書は類似しているが、書誌目録は著者・書籍を網羅することに主眼を置き、学習指南書は学習者に必要な書籍に絞って医学の特質や学習の利便性に応じて配列する点で相違している。

医学学習指南書と医学書誌目録は、初期近代における医学情報の流通や教育における情報提示のあり方という観点のもと、互いに関連し合うジャンルとして考える必要がある。

〈本研究はJSPS 科研費18K00265の助成を受けたものです。〉